



中島 隆博 (NAKAJIMA Takahiro)

東京大学東洋文化研究所 副所長・教授

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院人文科学研究科中国哲学専攻博士課程中途退学。

中国哲学研究者。東京大学大学院総合文化研究科の准教授、東洋文化研究所の准教授（2012年10月）を経て、2014年4月より同教授。

UTCP（The University of Tokyo Center of Philosophy）— 東京大学大学院総合文化研究科に設置された哲学の国際的な共同作業のための機関で、21世紀COEとグローバルCOEプログラム「共生のための国際哲学教育研究センター」の事務局長を務めた（2002～2012年）。現在もUTCPのメンバーでもある。

2016年4月より、東洋文化研究所副所長を務める。

中国哲学の脱構築、哲学と歴史、中国の言語哲学を主要研究テーマとして取り組む。

主な著書に、『コスモロギア—天、化、時』（法政大学出版局）、『悪の哲学—中国哲学の想像力』（筑摩選書）、『東大エグゼクティブ・マネジメント 課題設定の思考力』（共著、東京大学出版会）、『共生のプラクシス—国家と宗教』（東京大学出版会、第二十五回和辻哲郎文化賞受賞）、『哲学（ヒューマニティーズ）』（岩波書店）、『「莊子」—鶏となって時を告げよ』（岩波書店）、『残響の中国哲学—言語と政治』（東京大学出版会）、*Practicing Philosophy between China and Japan* (UTCP)、《解構与重建—中国哲学的可能性》(UTCP)、*The Chinese Turn in Philosophy* (UTCP)、共著に『岩波講座 現代 宗教とこころの新時代』（岩波書店）、『法と暴力の記憶 東アジアの歴史経験』（東京大学出版会）、『いま、哲学とはなにか』（未来社）、『漢字圏の近代 ことばと国家』（東大出版会）、『宗教と生命倫理』（ナカニシヤ出版）、『公共哲学の古典と将来』（東京大学出版会）、『ニヒリズムからの出発』（ナカニシヤ出版）、『新・哲学講義第8巻 歴史と終末論』（岩波書店）、訳書として『中国思想史』（アンヌ・チャン著、知泉書館）など、他多数。